



イマジン ロータリー

RI会長 ジェニファー・ジョーンズ

2022-2023年



Rotary District 2640 JAPAN

ROTARY CLUB OF KAINAN EAST

海南東ロータリークラブ

会長 中村 俊之 幹事 千賀 知起 SAA 田中 淳

第 2127 回例会

2023年2月19日(日)

海南商工会議所 4F 9:00～
海南クリーンアップ作戦 清掃活動例会

1. 開会点鐘
2. 出席報告

会員総数 44名 出席者数 17名
出席義務規定適用免除会員 3名
出席率 41.46% 前回修正出席率 73.17%

3. 会長スピーチ

会長 中村 俊之 君

皆さんおはようございます。本日は早朝より、前々日の急な時間変更にもかかわらず、毎年恒例、海南西ロータリークラブとの同時開催の清掃活動例会にこのようにたくさんの方に参加していただけたこと感謝申し上げます。



昨夜の天気予報が雨となっており、朝目覚めると防風が吹き荒れ開催できるのか心配ではありましたが、奇跡的にこの辺だけ雲の切れ目となり雨が降る前に、皆様のご協力のもと無事に終えることができました。当初の予定より少し狭い範囲の清掃活動となり残念ではありましたが、思いのほかゴミもたくさんあり、やはり少々無理をしてでも決行してよかったと思っています。

皆様、本当にお疲れさまでした。

来週より通常の例会に戻りますが、引き続きご協力、ご参加よろしくお願いたします。本日は以上です、ありがとうございます。

4. 海南クリーンアップ作戦

天候が雨模様でしたので、朝9時集合。海南商工会議所を基点に周辺道沿いを清掃。ロータリーデーの活動として「みんなで、街をきれいにしましょう」と道行く通行車両、歩行者など、沿道の多くの市民に無言でアピールしました。

出発前の集合写真



短時間でしたが、沢山のごみを回収しました。

2月 は 平和構築と紛争予防月間

四つのテスト 実行はこれに尽して

- ①真実かどうか ③好意と友情を深められるか
②みんなに公平か ④みんなのためになるかどうか



事務所 〒642-0002
海南市日方 1294 (海南商工会議所 4F)
TEL:073-483-0801 FAX:073-483-2266

5. 閉会点鐘

次回例会

第 2128 回 2023 年 2 月 27(月)
海南商工会議所 4F 12:30~
ゲスト卓話 西川様



戦時下の生活:最前線レポート

ロシアによるウクライナ侵攻から 1 年が経過した今、「Rotary」誌の記者ウェン・ホアンが欧州を訪れ、この人道的危機にロータリー会員がどのように対応しているかを直接取材してきました。2 回にわたるレポートでお伝えし、第 1 回はウクライナに向かう途中のポーランドでの体験をお伝えします。

ワルシャワ中央駅を降りると、ギターの形をしたハードロックカフェの看板が出迎えてくれます。写真を撮って、友人のジャーナリストへ送ります。彼の妻は、旧共産圏のハードロックカフェの T シャツをよく集めていました。彼女やポップカルチャーの専門家は、東欧の共産主義崩壊とロックンロールの間に強い関係があると信じています。私から見れば、この看板はポーランドの現代的アイデンティティを宣言している一例です。

ワルシャワ中心部の風景を見てみると、文化科学宮殿が目に見え込んできます。高さ 237 メートルで、ポーランドで 2 番目に高い建物です。1952 年に着工し、スターリンの死後に完成したこの高層ビルは、エンパイア・ステート・ビルディングのようなソ連様式の建物で、モスクワからその手に負えなくなった衛星国への「贈り物」でした。夜はウクライナ国の色である黄色と青色に照らされ、包囲された隣国との連帯を示しています。この共産主義時代のポーランドのシンボルからは、クリスマスのイルミネーションや欧米のファッションブランドのネオンサインで飾られたショッピングセンターが見下ろせます。

駅前で周囲のことに目を配りつつも、私の頭の中はこれから始まる日々のことばっかりです。これまで、ジャーナリストとして国際的な危機、激しい革命、自然災害などを世界中で取材してきました。だからこそ、ウクライナを訪れ、2022 年 2 月末にロシアが侵攻して以来、何百万人ものウクライナ人が苦しみ、それに耐えている状況を自分の目で確かめたかったのです。

シカゴの自宅から戦争のニュースをつぶさに見ていました。ロータリーでは、近隣諸国への避難を余儀なくされている人びとを含め、ウクライナ人に対する会員の支援活動についてほぼ毎日、報告を受

けていました。私が編集長を務める「Rotary」誌では、早くからウクライナのロータリー会員と毎週ビデオ会議を開いていました。また、ウクライナ侵攻から 3 カ月が経過した時点で、ロータリー財団が戦争の影響を受けた人びとを支援するために 1,500 万ドルの寄付を集めるのを目の当たりにしました。ウクライナ救援に駆けつけた人道的な人の波の団結心を直接体験してみたいという思いは、このようなことから強くなりました。

昨年の秋、ベルリンで休暇を過ごしていたときに思いがけない機会が訪れました。ウクライナのロータリー地域雑誌「Rotariets」を発行しているミコラ・スタビャンコさんが、ウクライナ西部の最大都市リヴィウに私を招待してくれました。リヴィウはポーランドとの国境に近く、ほかのロータリー会員と共にそこで開かれる財団セミナーに参加しないかと提案されたのです。ワルシャワに行きさえすれば、あとは何とかできるでしょう。

だから私は、10 月の夜、ポーランド首都のハードロックカフェの看板の下で、ワルシャワシティ・ローターアクトクラブの創立会長、ポーリーナ・コノプカさんを待っているのです。ポーラと呼ばれる 30 歳のローターアクターは、私を近くのレストランに連れて行き、ペパロニピザを食べながら、戦争が始まったとき、家族とモルジブへ向かう飛行機に乗っていたことを話してくれました。到着後すぐにワルシャワのローターアクター仲間と連絡を取り、何かできることはないかと考えたそうです。「最初の 1 カ月で、政府から企業まで、国全体がポーランドの難民やウクライナの人びとを助けるために立ち止まったようでした」と彼女は話します。「ロータリー会員として、本能的に助けたいと思うようになるのです」

ワルシャワのローターアクターは、ソーシャルメディアを利用して他国の友人たちに寄付を呼びかけました。ポーラさんのクラブは、ヴィラヌフ・インターナショナル・ローターアクトクラブと協力し、郊外にウクライナ人女性と子ども約 40 人のための長期滞在施設を設立し、難民のために料理やディスコパーティーなどの行事を企画しました。土曜日にはクラブ会員が訪問し、ギフトカードを渡したり、車で買い物に連れて行ったりしています。「また、毎週集まってポーランド語や英語を教え、新しい国での生活に慣れることができるよう手助けしています」とポーラさんは話します。

